

キーワード5 ほめ方

中学2年生のKさんは、担任のL教諭と個人面談をしている。

L教諭：「総合的な学習の時間の発表だけど、ものすごくよかったね。どういう工夫をしたら、あんなに分かりやすい発表にまとめることができるの？」

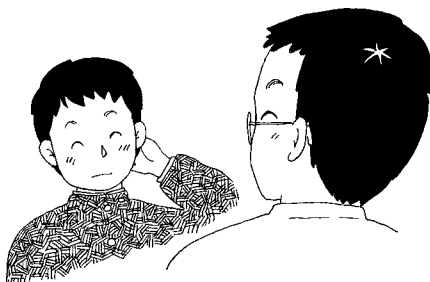
Kさん：「ありがとうございます。そんなに分かりやすかったですか。」

L教諭：「とても。使っていた資料もすごく分かりやすかったよ。」

Kさん：「うれしいな。資料を集めるのすごく大変だったんです。でも興味のあるテーマだったので頑張りました。先生にほめてもらって、またやる気が出ました。」

L教諭：「それはよかった。最近、そうじまじめにやるし、授業態度もずいぶんよくなったって評判だよ。」

Kさん：「先生は僕たちのことよく分かってくれるから。前の担任の先生には、悪いことばかり言われて。それにほめるのはいつも決まった人ばかりで。ひいきされてるようで頭にきて、実はみんなでその子を無視したこともあったんです。」



「ほめ上手は、伸ばし上手育て上手。」と言われます。教師が適切なほめ方を身につけ実践することが、ほめられる行動が増える、自信をもつ、他のことにも協力的になるなど、子供たちの成長につながります。

誰にでもほめる所があります

「あの子の行動は最近悪いから、ほめるところなどない。」という言葉が聞かれます。本当にほめるところがないのでしょうか。一人一人の子供の行動をよく観察すると、「またしてもらいたい行動」や「このまま継続してほしい行動」が見えてきます。その行動の一つ一つを言葉にしてほめてみましょう。どんなに小さなことだと思っても、その小さな変化や行動をほめることが大切なのです。

ほめ方のポイント

子供の成長につながるほめ方のポイントを挙げてみます。ポイントを押さえて、子供たちの自信とやる気を育てましょう。

- ①その場でほめる
- ②具体的にほめる
- ③事実、感心した事をほめる
- ④結果より努力をほめる
- ⑤タイミングをはずさずほめる
- ⑥小さな段階に区切って少しの変化をほめる（スモールステップ）

ほめるときの注意

ほめることが子供たちの不平不満になったり、かえって逆効果になる場合があります。ほめるときには、以下の点に十分配慮してください。

- ①口先でほめない
- ②発達段階に留意し、不自然にならないように
- ③むやみ、気まぐれにほめない
- ④みんなの前では公平にほめる
- ⑤おもねったり、気をひいたりすることのないように